

漢字と仮名の組合せ——優れた表記

そういう漢字を主要な文字として、またそれと全く異なった性格の「てにをは」という論理的、形式用語を仮名で表記し、漢字と仮名とを見事に組合わせて表記する日本語の仕組み、これは日本人の能力を非常に高める働きをしていると私は思います。

レジュメに書いてありますけれども、たとえば「コースイ」という言葉には普通三つの言葉がございます。まず、香りのよい水の「香水」、次に英語でいうハードウォーターの「硬水」、それからミネラルウォーターの「鉱水」です。「コースイ」という言葉ではなかなかぴんと来ないものが、文字になって出て来ますともう即座に、その内容まで頭に思い浮かべることが出来るわけです。

漢語の場合、これを漢字で書くということは誰も容易に考えることでありますが、大和言葉の場合、たとえば「はな」という言葉。「はな」という言葉は「端」という漢字が日本語のはなという言葉をよく表わしていると思います。つまり、物の突き出たところ、飛び出たところ、こういうところを大和言葉では「はな」と言っているわけであります。ですから、

それを漢字で書き表わしますと「端」という字がそれに当たる。顔の中で「端」の部分、つまり一番飛び出たところが「鼻」であります。それから桜の花とかチューリップの花とかと言いますけれども、「花」というものはすべて先端に咲き出るものでありまして、つまり「端」に咲いているものだから「はな」と呼んだのでしょう。あるいは初めは「端に咲いているもの」という風に呼んだものの省略かもしれません。また、鼻から出る液体を「はな」と呼んでいきますけれども、これを表わすものに「洩」という漢字がございます。

このように大和言葉でも漢字で表記することによって私どもの思想が一層明確に、速く正しく伝えやすくなるわけであります。このことは、中国の言葉を表わした文字である漢字を、日本語を表わす文字に変えてしまった、ということです。これが日本語の特徴であり、優秀性であると私は思うのです。従って、こういうすばらしい日本語を使っている日本人は、当然頭の働きがよくならなければならない、私はこう考えるわけであります。

さて、以上のことを考えた上で、これから国語学習の時期とその方法についてお話し申し上げたいと思います。